

総評：107回国家試験

日本赤十字豊田看護大学 教授

三木研作 先生



107回国家試験の傾向

- **新出題基準について**：新出題基準からはワークライフバランス、ハイリスクアプローチなどが出題されました。しかしこれらは、簡単な問題と難しい問題に分かれており、合否には大きく影響しなかったと思われます。
- **必修問題で多くの採点除外問題**：採点除外問題は最大8問で、どれも正答率が低い問題でした（メディックメディア社調べ）。こうした**正答率が低い問題は、必修問題では採点除外になりうる**ことが、今までの国家試験よりも明確になりました。とはいえ、この8問のために、試験中に不安を感じた受験生もいたようです。
- **一般・状況設定問題の合格最低点が上昇**：107回では**合格最低点が上昇**しました（106回：142点→107回：154点）。これは学生が苦手とする**5肢2択の問題が減った**ことが原因と考えられます。その他の問題の難易度は、ほぼ106回までと同程度の印象です。また同社のデータをみると午前より午後のほうが難易度の高い問題（正答率60%未満）が多かったようです。
- **その他**：視覚素材は例年よりも増加し、8点出題されました。

国家試験の勉強について

大事なことは「国家試験の合格率が約90%であること」です。よって、合格するためには**受験生が正解できる難易度の問題を取りこぼさない**ことが肝心です。そのために、もっとも意識したいのは以下の2点です。

- **過去問の知識をおさえた学習**：ほぼすべての学生が過去問をチェックして知識をおさえるため、合格に必要な問題を取りこぼさないためにも**過去問題集**での学習は必須です。また同時に、全分野が一冊にまとめて調べやすい**参考書**（『レビューブック』など）も必要です。なお、最初（一巡目）に過去問をチェックする際は、細かく調べて時間をかけるようなことはせず、まずは1問あたり1つの内容をチェックして簡単な知識を習得するのがポイントです。
- **正答率を意識した学習**：必修問題では、正答率が80%を下回る問題の多くが採点除外となりました。また、107回の一般・設定問題では、正答率60%以上の問題を合計するとおよそ190点（同社調べ）に達します。つまり**必修問題では正答率80%以上、一般・状況設定問題では正答率60%以上の過去問を学習する**のがよいと言えます。模試の復習も、同じ基準で行うと効率的です。

学生の指導で大事にしていること

勉強が苦手な学生は、授業についていけないことが多く自信をなくしがちです。小グループや個別対応で、勉強が苦手な学生には時間をかけて、ポジティブな気持ちで勉強してもらえるように心がけています。また**低学年にも国家試験の情報を提供**したり、国試問題や模試を解く機会を設けたりしています。勉強の習慣は、低学年のうちに身につくものです。入学時から学生にできるだけ勉強に時間を費やすように伝え、**学習スペースの確保**などの学習環境の整備もしています。

特集内 目次

頻出分野・テーマはコレだ！	P.10
プール問題の出題率は？	P.14
キーワードからみる5つの傾向	P.16
新出題基準で国試はどう変わった？	P.22
合否を分けた問題とは？	P.28